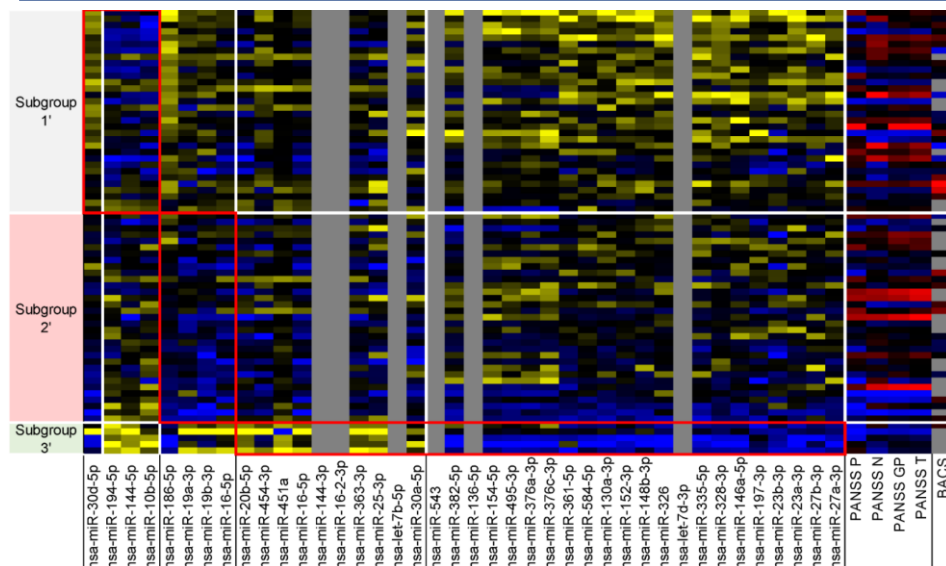


統合失調症の患者サブグループ及び炎症との関連を発見する 血液中マイクロRNA

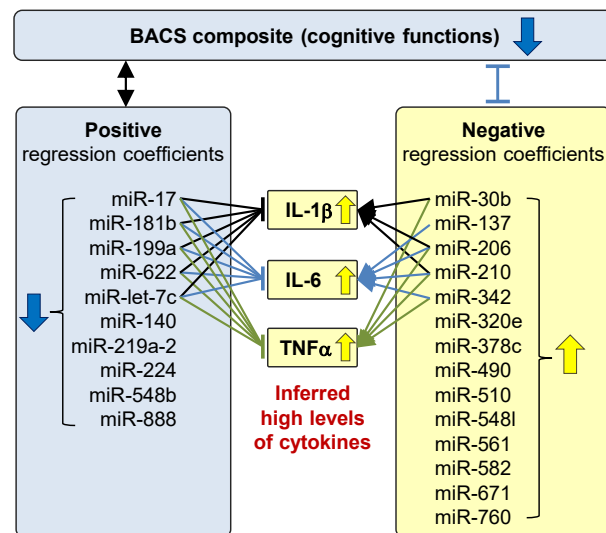
第一三共株式会社の宮野らは、NCNPバイオバンクの血漿（70例）と認知機能検査を含む重症度指標を用い、統合失調症における血漿中のマイクロRNA（miRNA）の解析を行った。その結果、**血漿中のmiRNAは、統合失調症のサブグループを識別し、症状の重症度を予測し、症状と根本的な炎症経路との関連を明らかにする有望なアプローチであることが示された。**これらの発見は、個別化治療戦略の開発に向けた基盤となり、統合失調症治療の新たな方向性を示す。例えば、炎症レベルが高い患者に対して抗炎症治療が効果的である可能性がある。

miRNAにより統合失調症患者サブグループを検出



赤枠は、本研究とは別のデータセットで見出された統合失調症の患者サブグループに特徴的であったmiRNAを示す。すなわち、miRNAによる患者サブグループ化に再現性があることが示された。

miRNAにより重症度スコアと炎症とを関連付け



重症度スコア（上記例は認知機能の指標であるBACS）を予測する上で重要なmiRNAを機械学習により抽出し、それらmiRNAと炎症性サイトカインとの関連性に基づいて、症状の重症度と炎症性との関連を見出した。